

体験事業ドキュメント (総集編)

～事前研修から帰国報告会までの様子を団員の記事と併せて紹介します～

6月15日(土)、7月6日(土)～7月7日(日)

第1回・第2回事前研修

体験事業についての説明



語学講座(カンボジア語)



カンボジア文化講座



青年海外協力隊 体験談



日本とカンボジアについて調べ学習発表



リーダー選出



現地での出し物の話し合い



事前研修を終えて



7月21日(日)
結団式・出発



「初めての飛行機でとても緊張した。でも、もとよちゃんとあやかちゃんが手をつないでくれて大丈夫だった。カンボジアの空港に着いた時、少し甘いような匂いがした。クメール語が一面に見られた。大きな空港で都会のように感じられた。」

前園 真鈴

7月22日(月)
午前：JICA カンボジア事務所 訪問



「支援をする上で大切なことは、あくまでも要請主義であることを忘れないことであると知った。自分たちが支える必要が、ある程度無くなるくらい人々が自力で活動できるようにサポートすることが重要だと改めて感じた。JICA のやりがいや良さを実際に活動している方々から聞くことが出来たのが良かった。」

下山 千晴



7月22日(月)

午後：入村式・ホストファミリーとの対面 (タトラヴ村)

「6時間くらいプノンペンからシエムリアップへ行くまでの間に建物の作りがだいぶ変わった。畑がだんだん多くなり、初めてヤシの実を見た。村に近づくと舗装道路ではなくなった。水牛がそこら辺を歩いているのに驚き。」 朝岡 里紗



「4人家族で犬がいた。何て言ってるのか全く分からず不安が大きくなった。室内の明かりが1つしかなく、寝室はもれた明かりしかない。子供も見たが、家の子か分からない。」 田代 佳鈴

7月23日(火)

午前：青年海外協力隊活動現場視察（深町菜摘 隊員・青少年活動）
オーオンバル小学校



「バスが校門に入った瞬間たくさんの子供たちが一斉に出て来て驚いた。歩いていたら手をつないでくれた。皆かわいらしい純粹無垢な目をしている。将来なりたいものの絵の中に大学卒業のときの絵があった。」

萩原 華音



「学校内にゴミがたくさん落ちていたり、グラウンドの状態が悪かったりと、日本とは違い驚くことが多かった。学校のポスターに日本の国旗があつて嬉しかった。深町さんの活動はとても興味深かった。」 鳥居 彩乃



7月24日(水)

終日：運動会視察・小学校交流
サマキーミエンチェイ小学校



「言葉は通じなくてもこんなに一緒に楽しくなれるんだなあと思った。日本では経験できないことだと思う。」 三浦 香苗



「元々学校の地域は地雷がすごすぎて人が居なかった。他の地区で過ごせないくらい貧しい人（が住んでいる場所）。制服などが揃っていたのは寄付金や先生達が給料から買ってあげたり、ちょっと裕福な家族が買っていた。半分以上は（自分たちでは）買えない。」

六反田 基世



7月25日(木)

午前：シェムリアップ視察（周辺観光）
アンコール・ワット



「装飾がとてもきれいに施されている。あんなにも重い石を運んできたことに驚いた。」

関田 伊織



「壁画がしっかりと物語になっている。戦争系が多い。内戦の銃弾の跡があっぴゅくり。」

田中 いぶき



7月25日(木)

午後：ホストファミリーと過ごす



「お肉にちょっと塩辛いソースみたいなものをつけて食べた。おいしかった。お散歩して、初めて会う人もフレンドリーに話しかけてくれて嬉しかった。」 岩重 優奈

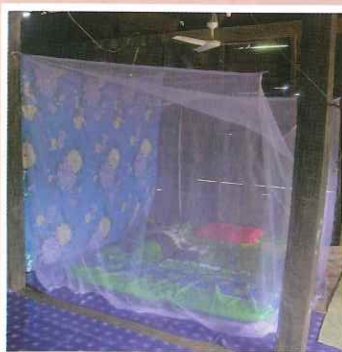


「私と一緒に食べるためにずっと待っていてくれた。本当にうれしかった。指差し会話帳を指してご飯の名前を教えてくれた。私が質問しても、何と返事しているのか分からなくてすごく申し訳なかった。それでも一生懸命伝えようとしてくれていた。」 朝岡 里紗

「私の好きな食べ物をたくさん作ってくれて嬉しかった。日本語で私に一生懸命話してくれた。」 鳥居 彩乃



「ホストファザーが私が帰って来た時日本語でおかえりと言ってくれたのに感動した。テーブルの上の画用紙に日本語の練習をしたものがあって感激した。」 三浦 香苗



7月25日(木)

夜：村とのお別れ会



「明日は村の人とお別れだ
と思うと何とも言えない気持ち
になる。1日目に思っていたこと
がおかしく思える。」

下山 千晴



「最後の30分間のダンスがとても楽しかった。今では日本へのホームシックではなく、タ
ラウ村シックになりそうだ。」

渡邊 望未

7月26日(金)

午前：村とのお別れ

「最初は大丈夫かな?と不安でいっぱい
だったが、最後は村の生活に慣れてとても離
れなくなかった。お姉さんが泣いているの
を見て自分もたくさん泣いてしまった。」

岩田 胡桃



「ホームステイを通して、優しさは壁を超
えるのだと思った。ファミリーの笑顔が大好
きで一緒に笑い合った日々が本当に幸せで楽
しかった。この体験、家族を絶対に忘れませ
ん。」

六反田 基世

7月26日(金)

午後：青年海外協力隊活動現場視察 (井上大地 隊員・体育)
ポントラベック中学校



「国際協力に今まで以上に興味を持つことが出来た。たくさん勉強して夢を叶えて、自分の技術で生活が豊かになる人が一人でも増えて欲しいと思った。」

田中 いぶき



「幸せの基準が下がったとおっしゃっていて、納得・共感した。青年海外協力隊は理科の分野もあるらしいので、興味が湧いた。」

岩重 優奈



「青年海外協力隊の活動内容について詳しく知れた。"自分の軸をしっかり持っていれば振れ幅が大きくてもブレずにいれる"若い今だからこそこの軸を作るために多くの経験をする。いろんなことに触れる。」

萩原 華音

7月27日(土)

プノンペン視察(周辺観光)
トゥールスレン博物館他



「カンボジアに暗い歴史があるのは知っていたが、ここまで奥が深いことは知らなかった。」
岩田 胡桃



「TOYOTA、NISSAN、日本の企業がとても多い。」
関田 伊織

7月28日(日)

帰国・解団式

「これから私は何ができるか、これから考えていこう。そしてもう一度カンボジアに行きたい!」
岡田 綾香



「ポルポトは悪い人ではなかった。でもやり方を間違えた。」と話す人もいて驚いたという話を聞いた。
井上 柊哉

